

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370800229		
法人名	医療法人社団敬和会		
事業所名	グループホームとおの		
所在地	岩手県遠野市松崎町白岩13-30-8		
自己評価作成日	平成28年10月18日	評価結果市町村受理日	平成29年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JivovsoCd=0370800229-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内		
訪問調査日	平成28年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域包括支援センター、介護保険係、自治会館、保育園、県立病院、同法人の老健もそばにあり立地環境に恵まれ、保育園や地域の行事にも関わりやすく、理念の実現に向けて地域とのつながりを深めるように努めています。又、今年度は管理者が開設以来初めて変わり、職員の移動もあったので地域の方々には改めてグループホームを知っていただこうと思見学も呼びかけ対応しました。敷地内にある畑では入居者様と一緒に栽培、収穫を行い、地域の方にはボランティアで敷地内の環境整備を手伝っていただきながら生活感が溢れるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民との付き合いが濃く、自治会行事や事業所の防災訓練を含め、自治会と事業所、地域住民と利用者・職員との日常的な交流が図られ、地域に定着した事業所として見守られている。電子カルテを採用し、タブレット端末を用いた記録方法により、全職員が瞬時に記録を確認できるシステムが確立されている。停電等の緊急時対応を考慮し、紙ベースでの記録保存も検討する意向である。職員が的確に情報共有して対応していることの表れと思われるが、利用者がとても穏やかに過ごしている印象を感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員、ホームを訪問された方にも目につくように理念を玄関に掲示した。入居者様との関わり方を考えながら、町内会議への参加や地域交流会開催を通し理念の実現を目指している。	事業所開設時に前管理者が定めた理念「その人らしさを大切に明るく共に笑顔で過ごせる安らぎの家 ご近所づき合いを大切に地域にとけ込む我がホーム」を大書し、玄関に掲げている。特に、唱和等はしていないが、月ごとのポイント設定構想とともに、この理念を継承している状況である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民としてひな祭り、防災訓練へ参加した。近所の方もホームに訪れ入居されている方の様子を気にかけていただいている。	町内会に加入し、地域の行事等にも積極的に参加している。事業所の防災訓練の前には、地域の全戸(200軒)にチラシを配布している。近隣住民から野菜等をいただくこともあるが、事業所で穫れた収穫物をおすそ分けすることもあり、地域に馴染んだ事業所として交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	27年より実施している認知症カフェ(通称なごみカフェ)は継続しており今年度は入居者様も数名参加した。地域の方の参加は少ないが引き続き取り組みたい。今年度は町内会議で簡単ではあるがグループホーム、認知症について報告する事ができた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホーム内の様子を報告し地域行事やホーム内の行事についての相談や反省会を実施している。今年度は夜間帯の避難訓練実施後に運営推進会議を行い地域の方や消防署職員の方も参加し避難訓練における助言をいただいた。	運営推進会議委員は、民生委員である自治会長と婦人会代表、家族代表に地域包括支援センター職員と少人数だが、必要に応じ、消防署員や保育園長も参加する形で、年6回開催している。隣接の老人保健施設の会議室や、自治会館を会場とすることが多いため、利用者は参加していない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険係、包括支援センターがすぐそばにあり行きやすい環境にある。新規入居者が見つからなかった時は包括支援センターに相談しそこから各居宅事業所へ情報提供がなされ新規入居者の調整を行う事ができた。	遠野健康福祉の里(介護福祉担当課と地域包括支援センター)が近くにあり、いつでも直接、相談に出向ける環境にあるため、連携状況に不満を感じたことはない。事業所の意向を理解して動いてくれたことで空部屋解消が実現し、感謝している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年の1月の早朝、勝手口から離設し警察署に保護される事故が発生した。センサーの台数を増やし再発防止に努めると同時に日中の玄関の開錠を継続し出入りが自由にできるよう努めている。	身体拘束を必要とする利用者はいないものの、建物からの出入り確認のため、玄関以外にもセンサーを設置したが、日中は施錠していない。転落の危険性防止のため、ベッドセンサーを使用している方が1名いる。今後、スピーチロックに留意した学習機会を設ける意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は虐待についての勉強会は実施できていない。月に一度の職員会議で入居者の対応等について話し合いを行い虐待につながるような事がないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は日常生活自立支援事業を活用している方が入居されていたが現在は該当者なし。今年度は権利擁護等の勉強会への参加もできていないのが現状。今後は年度単位での勉強会の実施を検討したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約の際は契約書を一緒に確認しながら行いその都度疑問点に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様が参加できない時が続いた為会議前には必ず家族様からの要望を確認している。それ以外でも面会に来られた家族様に意見や要望の有無を確認している。	意見箱は設置していないが、通院対応や面会等で家族が来訪した機会に、意見等を直接確認しているほか、日常的にメールでやり取りしている家族もいる。避難訓練後に実施した運営推進会議では、避難用スロープ設置の必要性はないかなどの意見も出された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で職員の提案を確認し必要時はメールや電話で法人本部とのやり取りを行う事ができている。行事費に関しても地域性を考慮した予算設定となっている。人事に関しては現在相談している事案があり対応中である。	夏季休暇や特別休暇など恵まれた制度が設定されているが、勤務ローテーション上では難しい状況もあり、職員不足を訴えている。居室にエアコンがなく、短期間ではあるが、家族に扇風機の持ち込みを依頼している状況である。管理者と職員は自由な意見交換する関係が確立されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	通常の週休の他に夏期、冬季の休暇や勤続年数に応じた特別休暇を取得できる。介護記録システムもタブレット端末二台、パソコン一台を設置し職場環境を整えている。給与面についても事業所の努力次第で一時金の支給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部からPCを通して研修参加を推進する働きかけがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の小規模事業所との会議、意見交換会、事例発表会を開催。市内にある法人外のグループホームとの交流や合同研修会も開催、参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際には部分的ではあるがセンター方式を活用し不安な事や要望を把握し新しい生活の場に安心して過ごしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点での困っている事の確認やグループホームの概要説明、見学を行うように努めている。入居契約時には契約書類の説明の都度家族様の質問や要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際に本人様、家族様の置かれている状況を確認し、すぐの対応が難しい場合は在宅サービスの調整や隣接する同法人の老健への入所申し込みも行うように勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	米とぎ、野菜切り、盛り付け、掃除、草むしり、洗濯たたみ、雑巾作り等押し付けにならないよう意識し日常的に一緒にに行き行った後は「ありがとう」を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族様に入居中の様子を伝える手紙を郵送し、必要時はメールも多用している。育児、仕事、介護の板ばさみになってしまった家族様と面談を行い家族様が出来ない所を支援し負担を軽減している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのなじみの理髪店には奥様の協力もあり引き続き通うことができている。女性入居者様からは「友達とあって話しがしたい」との希望が聞かれたので毎週金曜日に以前利用していた通所リハビリから協力を得て希望を叶えることができている。	昔馴染みの友人が来訪したり、顔馴染みの理髪店に出かけたり、市内の名所に行ったりしている。事業所の近隣住民が来訪するなど、新しい馴染みの関係も構築され、地域に根差した事業所として関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でのトラブルはあるがレク活動等を通して少しずつ入居者様同士の距離を縮め孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先の事業所に本人様の状況や支援方法を申し送り今までの生活の継続に配慮してもらえるよう対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志疎通が難しい方でも面会に来られる奥様から「こうあってほしい、ここに手をかけてほしい」という要望を確認でき対応できるように努めている。	利用者担当制としてはいるが、その時々に関わった職員が利用者の思いや意向を聞き取り、その実現に努めている。誕生日のメニューに希望を取り入れたり、可能なことは利用者の意向に合わせて実施するようにしている。以前は大正琴や詩吟を楽しんだ利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や習慣の確認や直近で利用していたサービス事業所へも経過や対応の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録し状態の変化を記録する際には気付きとして共有できるようにしながら現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し現状の確認や支援内容を検討している。家族様が面会に来られた際も積極的に現状を報告し支援内容の共有に勤めている。遠方の家族様にはメールでの対応も行っている。	月1回の午前中に職員全員で行う職員会議でモニタリングの確認をし、3ヶ月ごとに介護計画を作成している。家族の希望により歩く機会を増やすため、隣接の老人保健施設までの散歩を日課にしたりしている方もいる。電子カルテとタブレット使用により、紙ベースでの記録は最小限に留めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテ内の個別カルテに声かけや対応について記録しタブレットを使用し職員間でも情報を共有でき支援計画見直しの際も活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の小規模事業所では利用者様が生け花の先生となり地域の方に指導した事例はあった。現時点では多機能的な支援は行えていないが、本人様、家族様の状況を把握し新たに取り組めることがあれば検討したい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある保育園の園児との交流や近隣にある理髪店での散髪、かかりつけ医院との情報共有を行いながら地域資源を活用し安心して生活できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関の説明を行っている。以前からのかかりつけ医を希望される際は継続して受診できるよう支援し、できる限り同行している。	日常的に通院が必要な利用者が4名と、少ない状況であるが、以前からのかかりつけ医に、家族対応を原則として受診している。受診時には、利用者の情報を家族に手渡し、支援している。協力医療機関の医師や訪問看護師と連携しながら、受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日、訪問看護師に現状を報告し排便の調整や処置の指導を受けることができている。急変時でも電話で相談することができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居様が入院される際は入院の手続きが終わるまで家族様と付き合い必要な情報提供や退院許可が出た際の対応やその際の連絡先の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、家族様数名ではあるが終末期の希望を聞くことができその内1人の方は「寝たきりにならずに死にたい」と希望があり亡くなる前日までホーム内で生活できた。家族様からも「最期まで本人らしかった」とお言葉もいただいた。ただ、訪問看護師からは痰の吸引はできるようになった方がいいと助言があったので取り組む必要があると考えている。	医療行為を伴わずに、事業所内で最期を迎えた利用者がいたが、重度化や終末期に向けた方針等が整っていない段階であったため、今後、同じような状況が発生した際の対応について、協力医療機関も含め検討することが必要と感じている状態にある。	重度化や終末期に対し、事業所で出来ること、出来ないことの確認をし、家族に説明することにより、利用者と家族の安心感が向上するよう、事業所内で十分な検討を進めていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一度救急救命講座を受講している。又、急変時のマニュアル作成後入居者様のかかりつけ医師、協力医療機関に確認していただき解をいただいた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年二回実施し、その内一回は夜間帯に地域住民の方々にも参加していただいた。今回の台風の際も区長に地域の災害状況や避難場所の確認等を行い、協力を得られている。	年2回の防災訓練に地域住民や運営推進会議委員等も参加しており、夜間訓練も実施している。停電に備えてLPガス発電機も設備している。避難場所を自治会館としているなど、地域の協力体制が構築されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上着やズボンを反対に着てしまうが自分では気が付く事ができない入居者様に対しては他の方から少し離れた所で声をかけるように努めているが、プライバシーの確保について常に具体的に確認し合う事は少ないと思われる。	利用者の名前に「さん」付けて呼んでいる。夏には、風呂場の脱衣室前に衝立を置くなど、環境とプライバシーに配慮している。トイレ失敗時には、職員が複数で対応し、着替えと汚れ物処理が迅速に、かつ他の利用者に知られないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを常に訴えている方の対応が多く、自分の希望を話さない方への対応が不十分な時があると感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるがその都度声かけをし無理強いしないように努めている。草むしりがしたい方も天候等を見ながら声かけし行っていただく事ができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	天気や気温によって助言や調整を行う事はあるが入浴後の着替えを選ぶ際はできるだけ一緒に行い自分で決めていただくようにしている。外出の際は奥様のコーディネートで外出される方もおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備や片付けを職員、入居者様と一緒にやっている。野菜を収穫した時はシソジュース、枝豆、焼き芋と一緒に調理した。今年は地域交流会で地域の方と一緒に6mほどの長さの海苔巻きを作り、一緒に食事をする事ができた。	献立は、職員が1週間分を作成し、週3回食材購入に出かけているが、利用者は同行していない。米とぎや、刻み・盛り付け・配膳・下膳・食器拭きに利用者の2~3人が参加している。昼食は、職員2名が利用者と一緒に喫食している。訪問時は、デイサービス利用者2人の方も一緒に食事をしてきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量チェックや月に一度の体重測定の結果を見ながらカンファで確認する事もある。糖尿病の方はかかりつけ医院での検査結果と一緒に確認し医師から助言をいただいている。水分は起床時、食前後、浴後や就寝前等こまめに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシを使うことに拒否が多く見られる方にはうがいを行っていただき口腔内の食物残渣を取り除くように勤めている。又、入床前には義歯洗浄剤を使用できるよう支援し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿とりパットやリハビリパンツを使用するが、起床後から入床前までトイレを使用し排泄の支援を行っている。夜間帯も排尿パターンを確認し22時、2時にトイレ誘導を行いトイレでの排尿を行う事ができる方もおります。	布パンツを使用している方が7人で、排泄が完全に自立している利用者は3人である。失敗の時には、複数の職員で手早く処理できるよう対応している。現状維持が継続できるよう、今後も支援をしていく意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルト、朝のオヤツに乳製品を提供しているが便秘の方に対しては、トイレ内のカレンダーに排便があった日や時間をチェックいつでも排便チェックができるようにしている。腹部マッサージや屋内外の運動を行いできる限りトイレで排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	受診前日、外泊前日に入浴と決めていることもあるがその都度本人の体調や希望を確認し、週二回以上入浴できるよう支援を行っている。	日曜日以外の9時～16時を入浴時間帯としている。デイサービス利用者も入浴するため、入居者は、午後の入浴になることが多い。週に2～3回入浴している。夏場は脱衣室前に衝立を置き、環境とプライバシーに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前から睡眠導入剤を服用されている方で入床後大声で叫ぶ方がおり、入居後も同様に大声を出されていたが体位変換やパットの交換、歌謡曲を流す等の対応で入居時よりも穏やかに休む事ができている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方されている内服薬の説明書はファイルいつでも確認できるようにしている。服薬支援の際は誤薬を予防する為に夜間帯でのダブルチェック、服薬の際のダブルチェックを実施しているが職員1人で服薬支援を行う場合がある。その際はファイルと照らし合わせてから服薬支援を行い誤薬事故の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏の外泊の際に救急搬送された入居者様があり、外泊から戻ると「体調を崩しここで食事の手伝いができなくなった。お暇したい。」と話されたことでここで生活する理由を知るきっかけとなった。体調を見ながら少しずつ手伝っていただき今では外泊前と同じように自分の役割を果たすことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたい方や知人に会いたい方への対応はできるだけ応じるようにしている。気持ちの浮き沈みが激しく急に外へ出て行く方へも無理に止めず一緒に外を歩くように努めている。地域の婦人会が企画する日帰り旅行への参加の継続や職員が企画したバスハイクも家族様の協力を得られ入居者様全員が参加する事ができた。	天気の良い時期は、隣接の老人保健施設や近隣の保育園まで散歩している。春から秋にかけては、敷地内の畑で野菜を育てたり草取りをしたりしている。訪問時の昼食に出た枝豆ごはんの枝豆も収穫物とのことであった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からの了解を得ただけではあるが自分で金銭の管理を行っている。本人様は持っていることで安心されており、時々だがスーパーで飴を購入される。又、おこずかいの感覚で職員にお金を渡すことがありその際は本人様が入浴中にこっそり財布にお金を戻し残高のチェックも行っている家族様に報告している。。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけたいと希望される方はいないが「家族と話しがしたい」と希望があった際は一度家族様にメール等で状況の説明を行い電話でのやり取りを行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ウッドデッキには洗濯物も干してはいるが収穫した野菜も並べる事もあり季節を感じる事ができるようにしている。食堂は季節に応じた飾りつけを行っている。その際は幼稚にならないよう意識している。トイレを使用した後流さない方もおりその都度職員がトイレの汚染の有無を確認し次に使う方が心地良く使っていただけるよう努めている。	共用スペースは、食事エリアとテレビエリアに椅子やソファの配置で工夫している。畳の小上りもあるが、冬場は洗濯物の干場になっている。廊下には最近訪問したボランティアが書いたという利用者の似顔絵が貼られていた。上からの適度な採光と、ウッドデッキの大きな窓から見える遠景が落ち着いた雰囲気醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中の天気の良い日はウッドデッキを開放し自由に出入りできるようにする事で入居者様同士がベンチに座りゆっくりと過ごすことができるよう努めている。夕食の片付けが終わると気の合う女性入居者様が自然にテレビ前のソファに座りゆっくりテレビを見ながらくつろいでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等の持ち込みについて説明はするが自宅で使用していた家具を持ち込む方は少ない。入居前には自宅でのベッド位置や高さを確認し調整している。	ベッド、洗面台、床暖房に加湿器、小ぶりのタンスが2つ(引き出し式と洋服用)、3段式衣装ケースに椅子と照明スタンドが設備されている。収納調度品が多いため、衣類以外の持ち込み品が少ない。居室内は利用者それぞれの希望で、ベッドを含め異なった家具配置がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の前には名札を下げている。夜間帯は照明の調整を行い、安全に歩行できよう暗すぎないように注意している。		